令和6年度第3回札幌方面静内警察署協議会議事概要

1 開催日時

令和7年3月6日（木） 午前10時00分から午前11時00分まで

2 開催場所

静内警察署会議室

3 出席者

(1) 協議会委員 6人（定員7人）

会長	福原啓介
副会長	竹内幸子
委員	戸澤ひとみ
	徳橋かおる
	山田久麿
	山本恵美子

(2) 警察署員 6人

署長	野村憲成
副署長	佐藤渉
警務課長	鈴木隆
刑生課長	岡本伸
地域課長	川中涼介
交通課長	山田宏樹

4 署長挨拶

5 会長挨拶

6 業務概況説明等

- (1) 犯罪認知・検挙状況（令和6年中、令和7年1月末現在）
- (2) 交通事故発生状況（令和6年中、令和7年1月末現在）
- (3) ヒグマ出没状況（令和6年中）
- (4) 各種警察活動等の状況（令和6年11月から令和7年1月の間）
- (5) 令和7年度第1回警察官採用試験

7 諮問事項「交通事故防止対策について」

(1) 諮問事項の説明

ア 令和6年中の北海道の交通事故概況

（北海道警察ホームページ掲載資料により説明）

イ 令和6年中の静内警察署管内の交通事故概況

ウ 飲酒運転防止施策「飲酒運転ゼロボックス」の説明

エ 交通事故防止施策「ハンドサインでストップ運動」の説明

(3) 委員の意見（答申）

ア 委員

北海道の場合、夏の交通事故、冬の交通事故とでそれぞれ特徴があり、対策は難しいと思う。

特に冬は、降雪によりセンターラインが見えなかったり、カーブが分かりづらくなることがあって、その対策ができればと思う。

「ハンドサイン」の施策に関しては、歩行者側からのサインは、小学生の頃に教えられたのかもしれないが、なかなか出してこないと思う。

歩道を歩いていた人がいきなり方向転換して道路の横断を開始するという場合もある。

歩行者も運転者も、互いに合図を出し合うことを徹底して、事故防止につながれたらよいと思う。

イ 委員

交通安全についてはみんなが考えて、色々なことをやっていると思うが、なかなか決め手となるものはない。

交通安全広報についても色々なところでやっていると思うが、ただスピードを落とせ、安全運転と言うのではなく、聞いている側に内容が響いてくるものとする工夫が必要なのではないかと思う。

ウ 委員

啓発活動が大事だと思う。

例えばだが、「スピード10パーセントオフ」みたいなキャッチフレーズを作り、住民に浸透させるようなことはどうだろうか。

エ 委員

先日ラジオを聞いていたら、女性アナウンサーが緑ナンバーの運転手に「体調はいかがですか」等と聞いたり、安全運転を呼びかける内容の番組があった。

緑ナンバーの運転手はこういう番組を聞くと気持ちがホッコリして、一時でも心が和み気をつけてくれるのかなと思った。

大型店舗でも、来店客に店内での転倒防止等の安全を呼びかける放送がかかっている店があるが、駐車場での事故にも気をつけるように呼びかけるというのはどうだろうかと思う。

オ 委員

啓発活動を地道にやっていくほかなく、難しい問題だと思う。

これからの季節、新入学児童や自転車利用者が増えてくると思うので、それらの方を対象に啓発活動を行ってほしい。

カ 委員

車の装備で、燃費にいい運転をすると緑のランプが点灯するというものがあるが、燃費がいい運転ということはスピードを抑えた安全な運転をしているという目安にもなると思う。

冬場の事故というのは、スリップが原因だと思うので、そういうイメージを持って運転するのが大事だと思う。

キ 委員

協議会委員で地区の各種団体等の役員をやっている者がいるので、その集まりでチラシ等を配布したいと思う。

(4) 警察

本日の委員の皆様からの意見等は、今後の参考にさせていただきます。